

Brugada 症候群における完全皮下植込み型除細動器 植込み前の薬剤負荷試験中のスクリーニング検査の 有用性について

鎌倉 令 和田 暢 石橋耕平 井上優子
宮本康二 岡村英夫 永瀬 聡 野田 崇
相庭武司 草野研吾

【背景】Brugada 症候群における完全皮下植込み型除細動器 (S-ICD) の有用性が期待されているが、Brugada 症候群は心電図の変動を認めるため、通常の S-ICD 心電図スクリーニングのみでは T 波 oversensing (TWOS) による不適切作動の予測が困難な可能性がある。【方法】S-ICD 植込みを行った Brugada 症候群 6 例 (男性 6 例、診断時平均年齢 35.8 ± 9.1 歳) を対象とした。全例で S-ICD 植込み前に通常の心電図スクリーニングに加え、ピルシカイニド投与中 (1 mg/kg) の心電図スクリーニングを行い、S-ICD 植込み後の TWOS による不適切作動の予測に有用か否か、検討した。【結果】平均 192 日のフォローアップ期間中に心室細動による適切作動は認めなかった。通常のスクリーニング検査では全例で植込み適合基準を満たしていたが、薬物負荷中に 2 例 (33%) で不適合となり、うち 1 例で術後の運動負荷試験中に TWOS を認めた。しかし、通常時と薬物負荷中のスクリーニング検査で共に植込み適合基準を満たしていた 1 例 (17%) において、運動中に TWOS による不適切作動を認め、術後の運動負荷試験中の設定変更後も TWOS による不適切作動の再発を認めた。【結論】Brugada 症候群において、薬物負荷試験中のスクリーニング検査は S-ICD 植込み後に TWOS を起こしうる症例の同定に有用な可能性がある。しかし、TWOS の予測が困難な症例も存在し、薬物負荷試験中のスクリーニング検査結果に基づいた S-ICD 植込み適応の決定は困難である可能性が示唆された。

Keywords

- Brugada 症候群
- 完全皮下植込み型除細動器
- 薬物負荷試験
- T 波 oversensing

国立循環器病研究センター心臓血管内科不整脈科
(〒 565-8565 大阪府吹田市藤白台 5-7-1)

Impact of Electrocardiogram Screening during Drug Challenge Test for the Prediction of T-wave Oversensing by a Subcutaneous Implantable Cardioverter Defibrillator in Patients with Brugada Syndrome

Tsukasa Kamakura, Mitsuru Wada, Kouhei Ishibashi, Yūko Inoue, Kouji Miyamoto, Hideo Okamura, Satoshi Nagase, Takashi Noda, Takeshi Aiba, Kengo Kusano